

平成26年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 1 生徒の豊かな人間交流を促し、広い視野を持つ、健全な社会人、国際人としての成長を図る。
- 2 地域コミュニティを支える良識ある市民を育てる。

2 中期的目標

1 生徒の「やる気」スイッチをオンにする

- (1) 効力感、達成感の育成
 - ア 授業等の中で自己表現する場をより一層拡充する。
 - イ 教科学習と学校行事、部活動等の活動との両立を支援する。
 - ウ 部活動参加率（現在 67%）の更なる向上をめざす。
- (2) キャリア教育の推進（エリア選択等）
 - ア 「マイプラン」（1,2年次のエリア、科目選択を軸としたキャリア教育教材）作成指導を体系化する。
 - イ エリア学習の更なる充実（エリアの日、エリアの学習成果を発表する活動等）
- (3) 進路実現の支援
 - ア 生徒に主体的な学習を促すとともに、学習活動の総和としてより一層の進路実現を図る。
- (4) 資格取得等の推進
 - ア 外部資格取得をより推進し、生徒の「やる気」を引き出す。
- (5) 自習できる環境の整備

※生徒向け学校教育自己診断における「教え方に工夫をしている先生が多い」項目の肯定的評価を、H28年度までに+10（73）%（H25年度 63%）をめざす。
 ※普通科総合選択制アンケートにおける「エリアや選択科目のガイダンスはわかりやすい」項目の肯定的評価について、H28年度までに+5（78）%（H25年度 73%）をめざす。

※四年制大学進学希望者（第3学年当初）の一般入試受験率を、H28年度までに+8（41）%（H23～H25 平均 33%）をめざすとともに、大学入試センター試験の出願率を、H28年度までに+8（34）%（H23～H25 平均 26%）をめざす。

2 「授業力アップ」に向けた取組み

- (1) 授業アンケートの活用
 - ア 若手教員を中心とした「授業力アップ」チームをつくる。
- (2) 教員相互の授業見学と研修

※教職員対象の学校教育自己診断における「指導方法の工夫・改善」に対する肯定的評価を H28 年度までに+6（80）%（H25 年度 74%）をめざす。

3 情報の共有化

- (1) 学校教育の活動の「見える化」
 - ア 今まで学年、分掌、個人が個別に持っていた情報を収集・分析し、それを共有化し、より充実した教育活動を行う。
- (2) ICT 活用方針作成
 - ア ハード面も含め、本校における ICT 活用方針を確立する。

※情報委員会による ICT 活用方針を作成する。

4 新しい地元校づくり

- (1) 中高連携
 - ア 中学生対象の出前授業等の授業交流を進める。
 - イ 中学との部活動における連携を進める。
 - ウ 小中高 PTA 交流会の展開
- (2) 地域活動との連携
 - ア 地元地域活動との連携を進める。

※(1)については実施回数、参加者数を増加させる。また(2)については活動状況を Web ページで紹介する。

5 生徒理解の促進

- (1) 生徒情報交換会の実施
 - ア 課題のある生徒について S C と緊密に連携しながら生徒情報交換会を実施し、教員、養護教諭等が協力しながら指導方針を明確に示していく。

※保護者及び生徒向け学校教育自己診断における「よく相談にのってくれる」項目の肯定的評価を H28 年度までに保護者向け+6（80）%（H25 年度 74%）、生徒向け+10（66%）%（H25 年度 56%）をめざす。

6 中国帰国生徒・外国人生徒にかかる教育活動の充実

- (1) 中国帰国生徒・外国人生徒の指導
 - ア 出身中学、母語指導者等との密接な情報交換を日常的に行い、渡日・外国人生徒の指導を行う。
 - イ 日本人生徒との交流の促進

※近隣市外教との情報交換会を年2回以上実施する。また校内クラス活動、行事等で渡日生徒と日本人生徒との共同作業を計画的に増やす。

7 国際交流の推進

- (1) 中国の学校等と提携し、相互交流を行う。
 - ア 生徒の短期語学研修の実施
 - イ 本校教諭による相手校における日本語指導
 - ウ 相互の短期留学をめざす。
 - エ. 英語圏の学校との相互交流の実施

※生徒の短期語学研修を実施するが、姉妹校提携は当面保留する。（国際情勢の変化も考慮）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>(選択肢は、1 = よくあてはまる、2 = ややあてはまる、3 = あまりあてはまらない、4 = まったくあてはまらない。文中の回答の数字(%)は、特に指定しない限り1と2の合計を肯定的回答、2と3の合計を中間的回答、3と4の合計を否定的回答とする)</p> <p>○学校生活への満足度、全体的傾向 (関連質問)(1と2との合計(肯定的回答))()内は前年度(以下同じ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒「学校に行くことに意義を感じている」 74 (71) % 「門真なみはや高校に入学してよかったと感じる」 85 (73) % 「施設・設備で改善してほしいものがある」 46 (55) % ・保護者「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」 82 (82) % 「他の学校にない特色がある」 89 (87) % 「保護者の教育上の願いを聞いてくれる」 69 (64) % 「施設・設備で改善してほしいものがある」 33 (29) % <p>●生徒・保護者ともに学校生活への満足度がさらに向上 ●今後、「意義を感じない」生徒の割合を減らすため、教育内容の一層の充実が必要 ●老朽化した施設・設備の改善が課題</p> <p>○保護者との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者「学校からの文書等の連絡はしっかり届いている」 77 (74) % 「子どもから学校の話をしきることが多い」 73 (77) % 「学校は、家庭への連絡や意志疎通を十分行っている」 65 (64) % 「学校のホームページを利用した事がある」 47 (40) % <p>●学校からの文書等の連絡や子どもから話を聞く機会はある程度評価されているものの、学校から家庭への意思疎通が十分行き届いていないことが課題 ●しっかりした連携のため、昨年度リニューアルしたホームページを活用し、学年からのお知らせ等を積極的に発信する等の取組みを行う</p> <p>○学習環境、学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒「静かに授業を受ける環境がある」 79 (71) % 「教え方を工夫している先生が多い」 71 (63) % 「授業の補習や講習は十分用意されている」 86 (78) % ・保護者「進学のための講習が十分行われている」 74 (75) % <p>●学習環境、教員の教え方の工夫について、生徒の評価が大幅に向上 ●基礎・基本の定着、考える力の育成等に向け、教科を中心とした一層の授業改善と、自学習習慣の定着が課題 ●進学のための講習を実施しているものの、保護者には連絡が行き届いていない可能性がある。</p> <p>○進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒「進路や生き方を考える機会がある」 87 (79) % 「選択のためのガイダンス(マイプラン指導)は分かりやすい」 75 (64) % ・教職員「進路選択ができるようきめ細かい情報提供をしている」 84 (80) % 「生徒に対してキャリア教育の視点を持って教育を行っている」 71 (60) % <p>●進路や生き方を考える機会を積極的に設けることにより、考える機会に係る評価が大幅に向上 教員のていねいな説明や資料の改善等により、科目選択ガイダンス(マイプラン指導)の評価も大幅に向上 ●進路部・教務部・学年が連携し、3年間を見通した計画的な進路指導及びガイダンスを実施するとともに、教育活動全般を通じた広い意味でのキャリア教育を一層充実させる。</p> <p>○生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒「制服・遅刻・頭髪指導は適切」 78 (66) % 「学校生活についての先生の指導は納得できる」 79 (69) % ・保護者「制服・遅刻・頭髪指導は適切」 83 (83) % ・教職員「服装・遅刻・頭髪指導は適切だと思う」 67 (80) % 「生徒指導において、どの教員も同じ姿勢でのぞんでいる」 34 (47) % <p>●本校のていねいな生徒指導に対する生徒評価が大幅に向上、保護者も本校の生徒指導をおおむね評価 ●教員が多く入れ替わる中、同じ姿勢で生徒指導にのぞむため、指導のあり方等について教員間の意思共有が必要</p> <p>○人権尊重の教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒「学校では全体的に人権に配慮が十分なされている」 88 (82) % 「相談にのってくれる先生がいる」 60 (56) % ・保護者「いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる」 81 (79) % 「子どものことで相談にのってくれる先生がいる」 75 (69) % <p>●いじめや暴力のない学校づくりに取り組む学校の姿勢への評価が向上 ●相談できる先生について、保護者の評価は向上しているが、生徒の評価は高いとはいえない。 ●特に課題をしっかり把握して生徒の相談にのってくれる先生、保護者が安心して相談できる先生の存在及び相談に対応する学校体制の充実が必要</p> <p>○学校の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員「門真なみはや高校として、その方向性は概ね定まっている」 71 (83) % 「生徒に関する話が日常的に行われている」 91 (87) % 「教育課題についてよく話し合われている」 79 (67) % 「教育活動全般について生徒や保護者の願いにこたえている」 83 (73) % 「教育活動の評価を行い、次年度に生かしている」 88 (80) % <p>●今年度は再編整備対象校とはならなかったが、学校の方向性については引き続き意思を共有する必要がある。 ●教員は生徒の課題を共有し、生徒及び保護者の願いに応えようとしている。 ●生徒にとり、よりよい教育をめざして、取組みを分析・評価し、今後の改善につなげることが大切</p>	<p>第1回(6月9日(月))</p> <p>○学習習慣の育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一年次から学習習慣を身につけさせるとともに、仲間と共に学ぶ姿勢を育てることが必要。これらの取組みにより、放課後・夏休み等に実施している補習等への参加者人数を一層増やしてほしい。 <p>○学力の育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをまとめたり、発表する授業は大切であるが、基礎的な知識を定着させるような授業も大切にしてほしい。 <p>○再編整備計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再編整備にあたっては、門真なみはや高校の今までの取組みを生かす方向進んでほしい。 <p>○図書館利用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用度が高いことから、土日や夜でも開館できるような工夫はできないか。 <p>*現在、近隣の公共施設等を自習場所として利用</p> <p>第2回(10月29日(水))</p> <p>○2年生エリア授業(6限)を見学した後の意見・感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自分で選んでいるエリアの授業なので、自主的にしっかり取り組んでいた。 ・生徒が選択したエリアが、自分にマッチしていることが大切である。 ・特に各エリアにおいて、質の高い授業を準備する教員は大変だと思うが、頑張してほしい。 <p>○授業改善の取組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(学校長からの報告により)学校全体で授業改善に力を入れていることがわかった。 <p>第3回(1月27日(火))</p> <p>○生徒が身につける力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生・大学生の基本的なマナー意識等が希薄になっていることが課題であり、従来どおりの指導では通用しにくい。 ・情報機器を活用する力等、新たな力が求められる一方、従来から大切にしてきた、基礎・基本の定着、考える力・まとめる力・発表する力等の育成も大切。育成に向けては、生徒が継続的に努力するように教員が働きかけることが重要。 ・生徒が力をつけるためには、各教科が生徒に積極的に働きかけ、到達目標に向かって努力する大切さを、理解させることが重要。そのためには、教員が明確な目標を共有し、学校全体で取組みを進める必要がある。 <p>○生徒をとりまく環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットやSNS等による人間関係が重要視される中、人間関係が築けない生徒がいる。 ・生徒が表面的なことばかりに飛びつくのではなく、人間として必要な、自分を表現する力、問題を掘りさげて考える力、人間関係を作る力をつける教育を引き続き行ってほしい。 <p>○学校の取組みの評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断アンケートで、大きく数値が伸びている項目がある。教職員の頑張りや結果が出ており、今後も生徒を伸ばしてほしい。 <p>○地元校として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからも引き続き、地域に開かれた学校としての役割を果たしてほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒の「やる気」スイッチをオンにする	(1) キャリア教育の推進を通じた生徒の自己効力感、達成感の育成 ア エリア学習の充実	(1) キャリア教育の推進を通じた生徒の自己効力感、達成感の育成 ア ・すべてのエリアで学習成果の発表等を実施 ・総合的な学習の時間にエリアのまとめ活動を実施するとともに、全エリアを通じた成果発表会等を開催	(1) ア ・自己診断(生徒)で「授業でまとめ・発表の機会がある」 (69%→+5 (74)%) ・第3学年で実施する総合選択制アンケートにおいて、「十分に力が付いたか」各項目の肯定的評価アップ (67~82%→全項目 80%以上)	(1) ア ・「授業でまとめ・発表の機会がある」74% (○) ・今年度初めて2年生エリア発表会を開催 (◎) 全エリアが取組みを発表(1月29日(木)) 2年修学旅行でのエリア別研修(10月) 小学生の学校訪問時のエリア体験(12月) ・7項目のうち4項目で肯定的評価アップ 73~81% (平均77%) (△) 特にエリア学習で、考えをまとめ、発表する機会の一層の充実が必要
	イ 部活動参加率向上	イ ・体験入部等加入促進活動の充実 ・校内で部活動を周知する(場所の確保等) ・中学生向けに部活動の積極的な発信	イ ・体験入部活動等の実施(年2回) ・1年生入部率(77%→+3 (80)%) ・全学年入部率(67%→+3 (70)%)	イ 体験入部と入学時の学年・クラスでの (◎) ていねいな入部指導により、加入率が大幅に向上 ・1年生入部率87% 全学年入部率74%*5月末
	ウ 「マイプラン」の体系的な作成指導	ウ ・卒業までの教育活動全般でキャリア教育を推進するため、関係分掌・学年が連携して3年間を見通した指導計画の作成 ・生徒の「マイプラン」作成指導の充実に向けて13期生・14期生の「マイプラン」作成のための教員向け指導資料の作成	ウ ・自己診断(生徒)で「ガイダンスは分かりやすい」 (64%→+5 (69)%) 「進路や生き方を考える機会がある」 (79%→+3 (82)%)	ウ 外部模試等の活用及び進路部と教務部 (◎) 学年の連携した取組みにより評価が向上 「ガイダンスは分かりやすい」(75%) 「進路や生き方を考える機会がある」(87%)
エ 進路実現の支援	エ ・各授業で生徒の主体的な学習を促す。とりわけ自由選択科目は進路実現に向けた科目であることの認識のもと、生徒に主体的な学習を促すことにより、希望進路の実現を図る。 ・多様な学びの中で形成した個々の力を最大限発揮できるよう、生徒が最後まで努力することを支援し、希望進路の実現を図る。	エ ・授業アンケートで講義における「授業内容を予習・復習」・「授業中は集中」、実技における「授業に積極的に参加」・「授業中は集中」の平均(75%→+3 (78)%) ・普通科総合選択制アンケート「自由選択科目は進路実現に役立った」(62%→+5 (67)%) ・希望進路の実現状況 i 四大希望者(3年当初)と比較一般入試受験率 (H23~H25 平均30%→+3 (33)%) センター出願率 (H23~H25 平均26%→+3 (29)%) ii 四大AO決定者数 (H23~H25 平均5.3人から増加) iii 年度末進路未決定者数(浪人除く) (H23~H25 平均10人から減)	エ 授業改善の取組みにより、授業そのもの(△)への評価は改善したが、生徒の主体的な学習には十分につながらなかった。 ・授業アンケートにおける当該項目の評価平均(75 (H25.74.5→H26.75.1)%) ・「自由選択科目は進路実現に役立った」(65%) ・希望進路の実現状況 i 一般入試受験率(37%) (◎) センター出願率(20%) (△) ii 四大AO決定者数(4人) (△) iii 年度末進路未決定者数(浪人除く) (○) (9人 2月末現在)	
(2) 資格取得等の推進	(2) 資格取得等の推進 ・エリア等で実施している検定受験等の増加に向けて、生徒の意識の変化に対応した資格取得の意識づけの充実 (例:漢字検定、書写検定、パソコン・ワープロ検定、日本語・中国語検定)	(2) 受検者増加 ・教科やエリア等で検定や資格取得を推進 i 漢字検定受検者数 (H25 192人→+5% (202)人) ii 当該エリア等での受検率維持 ただし生徒の選択状況による(参考例) パソコン検定 (H25 94%) 日本語検定 (H25 69%) 中国語検定 (H25 75%)	(2) 今年度より新たに英語検定を校内実施 エリア等での受験率はおおむね維持 i 漢字検定受検者数(177人) (△) *英語検定の校内実施 (◎) 受検者 (H26 40人) 合格者 (H26 19人) ii パソコン検定 (96%) (◎) 日本語検定 (80%) (◎) 中国語検定 (89%) (◎)	
(3) 自習できる環境の整備	(3) 自習できる環境の整備 ・展開教室等を利用した自習教室を整備し、講習以外で自主的に残って自習する生徒の定着を図る	(3) 年間を通じた自習教室等の利用 自習教室等の利用者数 (10人/日)	(3) 図書室及び会議室を11月から自習教室(○)として整備し、運用開始 (参考) 前期中間考査期間1週間前~考査期間中の教室等での自習(45人/日)	

2 「授業力アップ」に向けた取り組み	<p>(1) ア 授業アンケートの活用</p> <p>イ 教員相互の授業見学と研修</p>	<p>(1) 基礎学力の定着をめざした「授業力アップ」の取り組み</p> <p>ア 授業アンケートの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートを6月（課題把握）と12月（検証）に実施 <p>イ 教員相互の授業見学と研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習期間や授業アンケート実施に合わせて、6月と10月に若手教員を中心に相互の授業見学を行う。 <p>ア、イの課題に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着に向け、授業アンケート結果を教員及び教科等にフィードバックし、個人・教科等で授業改善の目標を立てて実施するとともに結果を検証 ・教科主任会等で授業改善の課題や方策を検討するとともに、授業改善に向けた研修を実施 	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケート全項目の平均（77%→78%）*全教員 ・自己診断（生徒）で「教え方を工夫している先生が多い」（63%→+3（66）%） <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開研究授業を前・後期に1回ずつ設定 ・若手教員（教職経験年数3年未満）は最低1回授業見学を行う。 <p>・教科主任会等で授業改善の課題や方策を検討し、研修会等を開催（年2回）</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <p>授業アンケートを踏まえた個人及び教科におけるふり返りの実施等により評価が向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全項目平均（77%）*非常勤除く（△） ・「工夫している先生が多い」（71%）（◎） <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任者公開研究授業と連動した研修会（◎）を開催（3回） ・若手教員の授業見学（○） <p>・「授業改善に係る打合せ会」（◎）（首席・指導教諭による）を設置し、次年度に向け授業改善方針を策定中。その方針をもとに、教科で指導計画とその指導方法について検討する。</p>
3 国際交流の推進	<p>(1) 中国の学校等との相互交流</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の短期語学研修の充実 ・中国以外のアジアの国、地域とも交流の拡大（スタディーツアー、交流受け入れ） ・英語圏の国・地域との取組みとしてグアム（セント・ジョンズ・スクール）との交流の定着 <p>※いずれも国際情勢等の変化を考慮</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短期語学研修参加生徒の増加 H25より増加*参考 H25 5人 ・英語圏との語学研修の具体化に向けた計画策定 ・交流申込みの積極的受け入れ H25より増加*参考（H25 2回） ・国際エリア生徒の交流（複数回） 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短期語学研修（◎） 英語圏（グアム）での語学研修（8月） 参加生徒4人 中国瀋陽市での語学研修（12月） 参加生徒4人 ・交流受け入れ（3回）（◎） *国際エリア以外の生徒も交流会に参加 国際エリア生徒は別途、文通・メール交換等による国際交流を実施